

事業名：若年層対策事業を通じた「PFS活用型健診事前対策事業の標準モデル」の構築

兵庫県建築健康保険組合

■ 本事業が求められる背景

若年層対策の必要性と課題 特定保健指導の効率的な実施及び対象者減少のためには、**40歳よりも前の段階から生活習慣の見直しに着手する必要性が高い**が、その状況把握・評価に必要な**健診結果を事業主から回収し、活用することは容易ではない**。

健診結果改善を評価する事業の困難さ 「特定保健指導モデル実施」の制度化など、健保組合による**保健事業の多くにおいて「成果志向」**が広がり始めているが、**翌年度の健診結果が改善することを成果目標とみなす事業**は、年度予算を前提とした年度契約が一般的であること、また年度を跨いだデータの紐付け作業に対応できる職員不足等の面から、**多くの健保組合では実施が困難**であるのが実状。

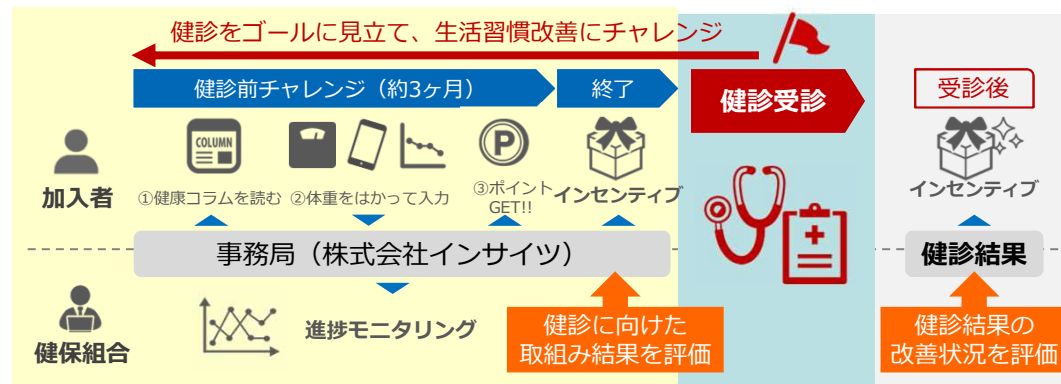
若年層対策に主眼を置いた「健診前チャレンジ」事業による 本事業の目的

- ① 「PFS活用型健診事前対策事業の標準モデル」の構築
- ② 若年層対策事業の標準課題抽出

『健診前チャレンジ』とは

健康意識が高まる機会である**健診前**に、健診をゴールに見立てた生活習慣改善プログラムに参加いただき、**健診を良い状態で迎えていただく**ことを狙った企画です。

*『健診前チャレンジ』は株式会社インサイトの登録商標です
(登録番号：第5503249号)



■ 本事業の特長

A) 共同実施

- 同一事業を複数の健保組合（6組合）で取り組む「共同事業方式」を採用
⇒事業者がリスクをとりやすくなり、野心的な目標設定が可能
- 複数の健保組合の成果を共通の指標で評価 ⇒横展開を見据えた標準モデルの構築が可能

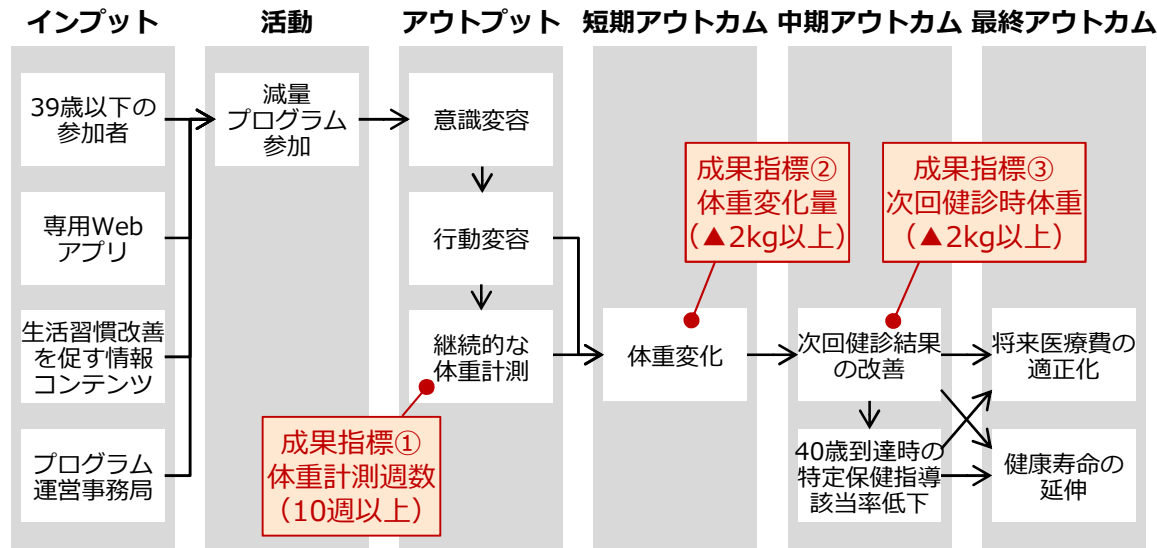
B) 3ヶ年計画

- 健診事前対策という事業特性上、4月～翌3月の1年間に渡る全健診受診者を対象とするためには、前年度からの着手、受診、及び受診翌年度における評価という3ヶ年計画が必須
⇒本事業では令和5年度の健診を良い結果で迎えるための3ヶ年計画として着手

C) 令和3年度事業成果の採用

- 令和3年度採択事業における事業成果（ロジックモデル、第三者評価機関における検証結果）を活用
⇒成果指標及び横展開可能なモデルの構築事例として参照

■ ロジックモデル及び成果指標



成果指標①：体重計測週数

達成条件：プログラム期間中、合計10週以上の体重入力を実施

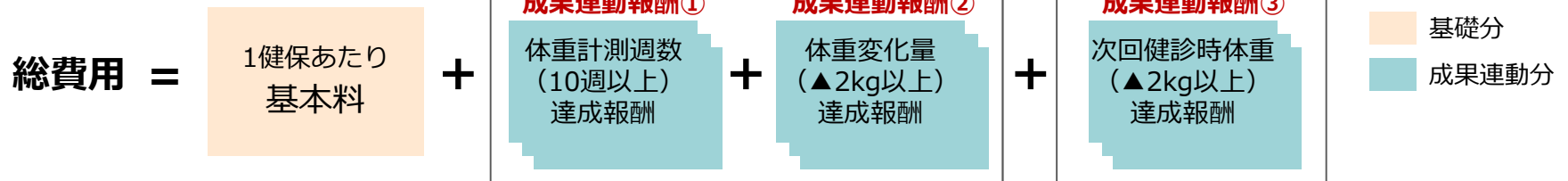
成果指標②：体重変化量

達成条件：下記aまたはbのどちらか一方を満たす
 a プログラム終了時体重(kg) - プログラム開始時体重(kg) ≤ -2
 b プログラム終了時体重(kg) - 前回健診時体重(kg) ≤ -2

成果指標③：次回健診時体重

達成条件：下記cまたはdのどちらか一方を満たす
 c 次回健診時体重(kg) - プログラム開始時体重(kg) ≤ -2
 d 次回健診時体重(kg) - 前回健診時体重(kg) ≤ -2

■ 本事業の成果評価方法



■ 事業スケジュール ➡ 令和5年度の健診を良い結果で迎えるための3ヶ年計画

